

2026年3月期（2025年度） 決算説明資料

2026年5月28日

株式会社 指月電機製作所

(東証スタンダード 証券コード：6994)

代表執行役社長 稲垣裕一

1. 2026年3月期（2025年度） 通期 連結決算概要

2. 2027年3月期（2026年度） 通期 最新見通し

3. 中期経営計画 第Ⅲ期の進捗状況

■ 補足資料

2026年3月期（2025年度） 通期 連結決算概要

- ▶ 売上高は、xEV用コンデンサが減少したものの、電力機器システムが伸長し、前年度比6.5億円(2%)の増収。5期連続で過去最高値を更新。
- ▶ 営業利益は、生産性改善の効果や売上構成の変動等があり、前年度比5.4億円の増益。営業利益、当期純利益は、過去最高値を更新。

【百万円】

項目	2024年度 通期	2025年度通期		前年度比
		業績予想	実績	
売上高	27,346	27,800	27,995	+649 (+2%)
営業利益	1,990	2,450	2,529	+538 (+27%)
営業利益率	7.3 %	8.8 %	9.0 %	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,194	1,800	1,990	+796 (67%)



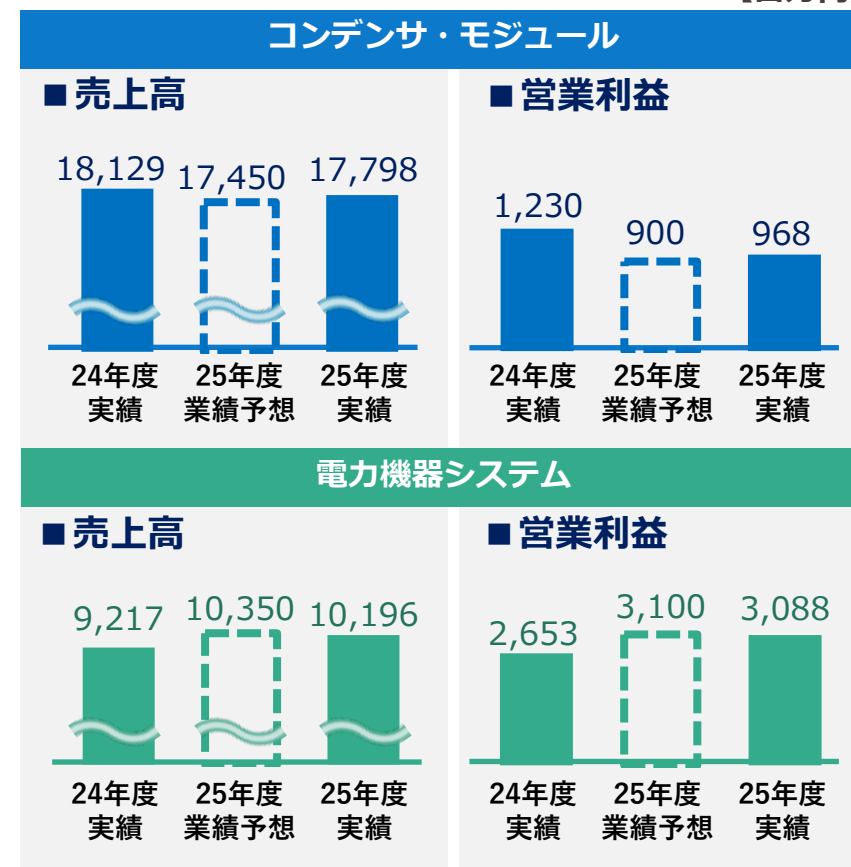
2026年3月期（2025年度） 通期 セグメント別実績

- ▶ コンデンサ・モジュールは、産業機器用コンデンサがパワーエレ市場を中心に好調に推移したものの、xEV用コンデンサが早期ピークアウトや在庫調整により減少したこと等から、前年度比減収減益。
- ▶ 電力機器システムは、国内向けの力率改善用機器等が伸長し、生産性改善の効果などもあり、増収増益。

【百万円】

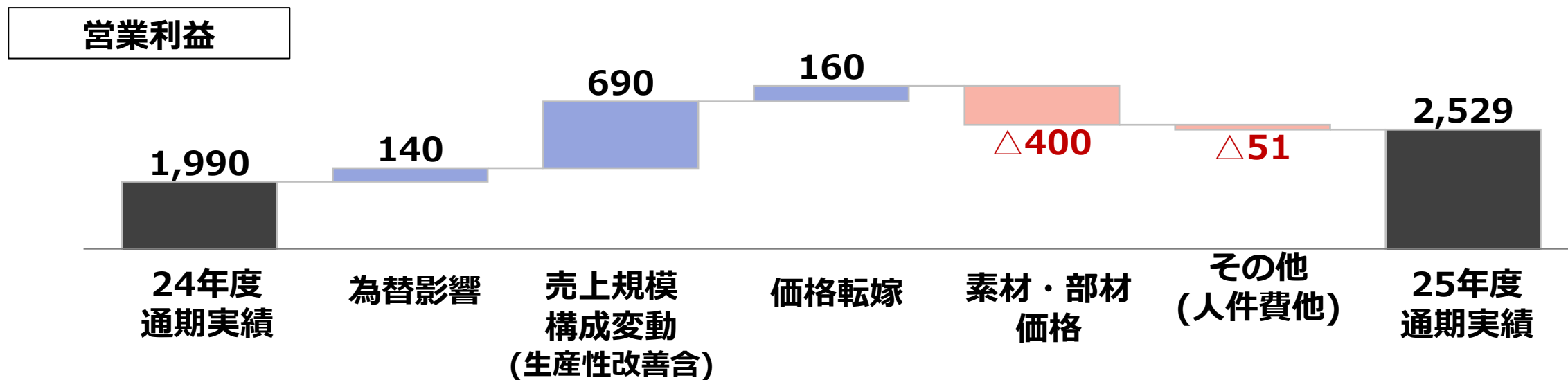
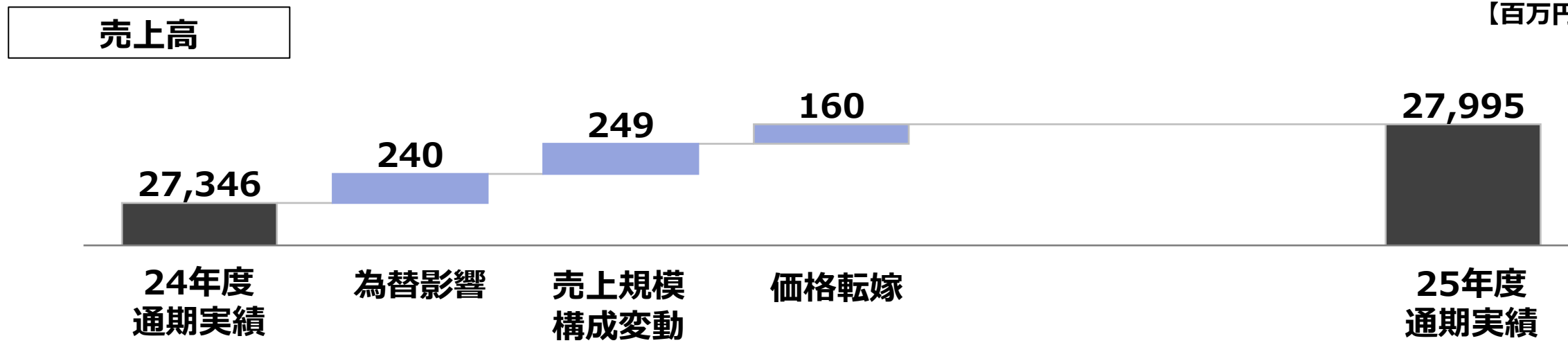
セグメント	項目	2024年度 通期	2025年度通期		前年度比
			業績予想	実績	
コンデンサ・ モジュール	売上高	18,129	17,450	17,798	▲330 (▲2%)
	営業利益	1,230	900	968	▲261 (▲21%)
	営業利益率	6.8%	5.2%	5.4%	—
電力機器 システム	売上高	9,217	10,350	10,196	+979 (+11%)
	営業利益	2,653	3,100	3,088	+434 (+16%)
	営業利益率	28.8%	29.9%	30.3%	—
セグメント利益の調整額		▲1,892	▲1,550	▲1,526	▲366

【百万円】



2026年3月期（2025年度） 通期 損益変動分析

【百万円】



2026年3月期（2025年度） 連結財政状態

【百万円】

項目	2025年3月末	2026年3月末	前期末比
資産計	38,344	41,626	+3,282
現金及び預金	5,929	9,187	+3,258
売上債権	11,007	9,993	▲1,013
棚卸資産	2,667	2,842	+174
有形固定資産	14,183	14,911	+727
負債計	14,597	15,835	+1,238
社債・借入金	8,800	9,000	+200
借入金比率	(23.0 %)	(21.6%)	—
純資産計	23,747	25,790	+2,043
自己資本比率	(61.0 %)	(61.0 %)	—

1. 2026年3月期（2025年度） 通期 連結決算概要
 2. **2027年3月期（2026年度） 通期 最新見通し**
 3. 中期経営計画 第Ⅲ期の進捗状況
- 補足資料

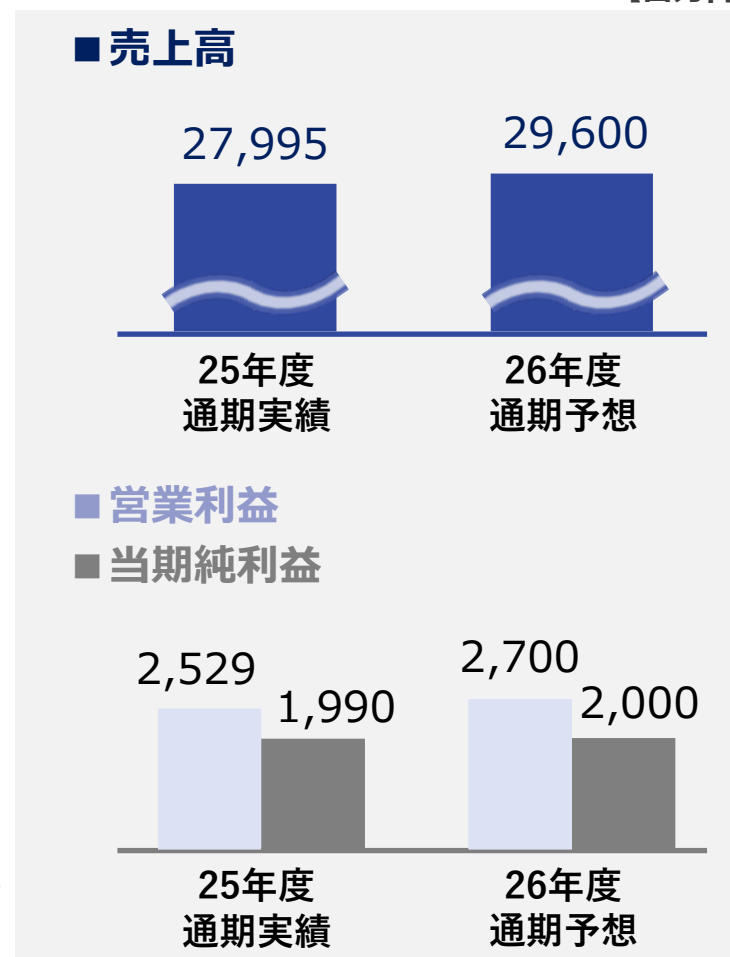
2027年3月期（2026年度） 通期 連結業績予想

- ▶ xEV用コンデンサや電力機器システムの増収等を見込み、売上高は前年度比+16.0億円(6%)増収となる296億円を計画。
- ▶ 営業利益は、中東情勢の緊迫化等による素材・部材価格高騰の影響が見込まれる中、増収効果に加え、価格適正化への対応、生産性改善の効果等を織り込み、前年度比+1.7億円(7%)増益となる27億円を計画。

【百万円】

項目	2025年度 通期	2026年度 通期 最新予想	前年度比
売上高	27,995	29,600	+1,604
(上期/下期)	13,249/ 14,746	13,500/ 16,100	+250/ +1,353
営業利益	2,529	2,700	+170
(上期/下期)	1,118/ 1,410	1,000/ 1,700	▲118/ +289
営業利益率	9.0%	9.1%	—
(上期/下期)	8.4%/ 9.6%	7.4%/ 10.6%	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,990	2,000	+9
(上期/下期)	851/ 1,139	750/ 1,250	▲101/ +110
為替レート	2025年度 通期	2026年度 通期 最新予想	為替感応度(売上高) 対ドル(1円変動)
米ドル	150円	155円	20百万円

【百万円】

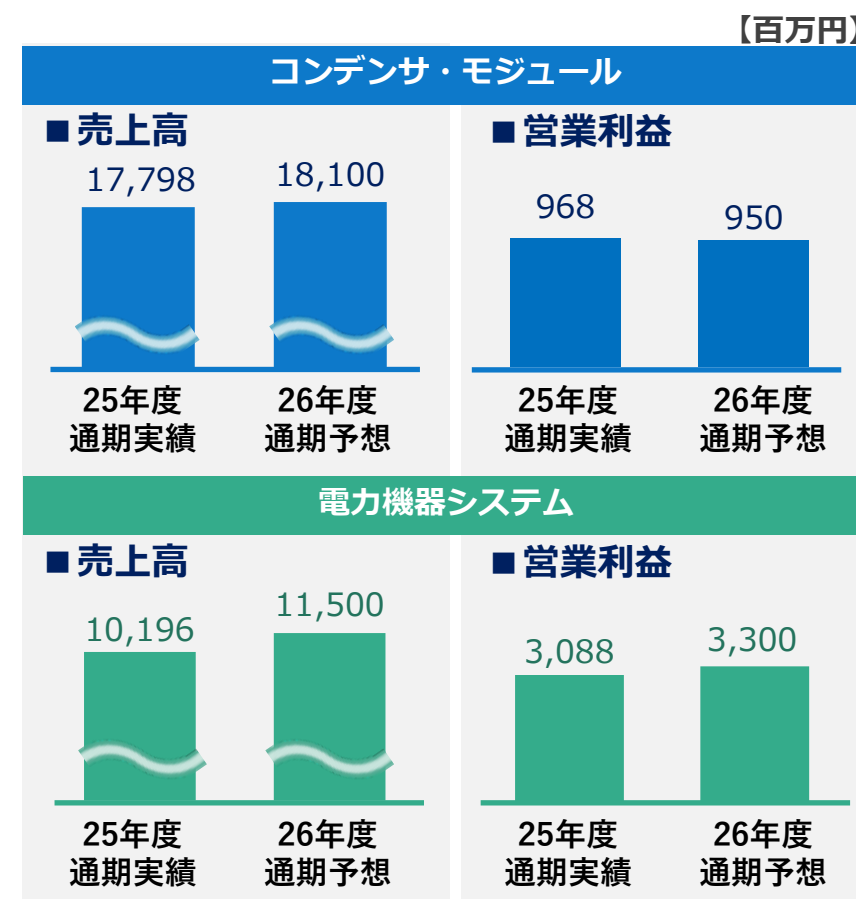


2027年3月期（2026年度） 通期 セグメント別業績予想

- ▶ コンデンサ・モジュールの売上高は、前年度比2%の増収を計画。
営業利益は、中東情勢の緊迫化等による素材・部材価格高騰の影響を織り込み減益を見込む。
- ▶ 電力機器システムは、国内電力や環境省エネ機器の需要増加などにより前年度比増収増益を計画。

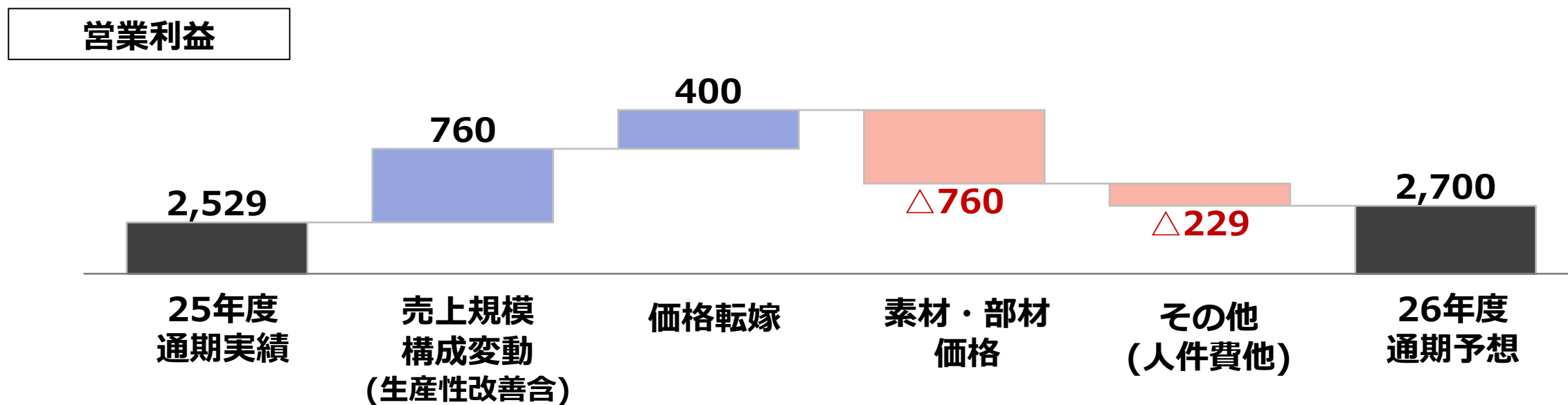
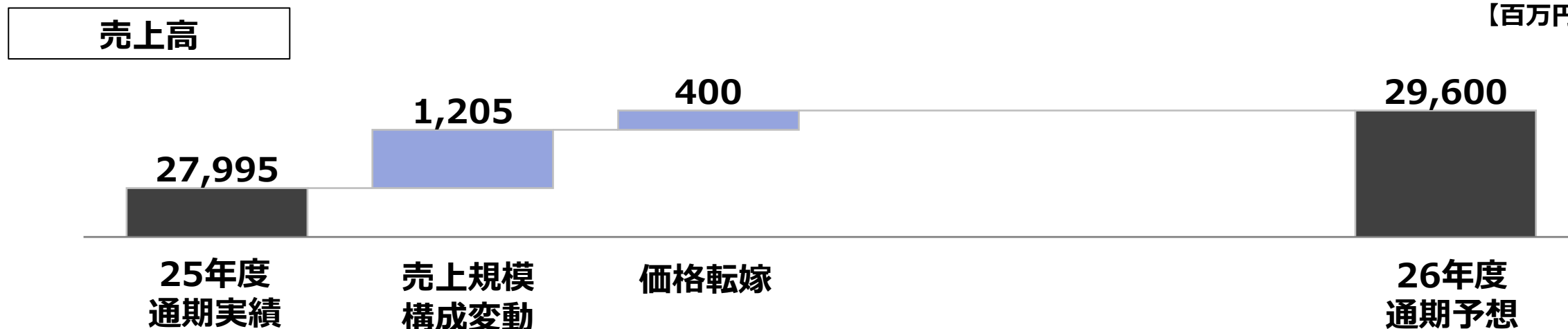
【百万円】

項目	セグメント	2025年度 通期	2026年度 通期 最新予想	前年度比
コンデンサ・ モジュール	売上高	17,798	18,100	+301
	営業利益	968	950	▲18
	営業利益率	5.4%	5.3%	—
電力機器 システム	売上高	10,196	11,500	+1,303
	営業利益	3,088	3,300	+211
	営業利益率	30.3%	28.7%	—
セグメント利益の調整額		▲1,526	▲1,550	▲23



2027年3月期（2026年度） 通期 損益変動分析

【百万円】



2027年3月期（2026年度） 通期 設備投資・ROE・ROA・配当

- ▶ 2026年度の設備投資(意思決定ベース)は、生産能力の増強、合理化、生産基盤の刷新(インフラ、IT等)を主に12億円を計画。なお、キャッシュアウトベースでは、本社生産棟建替え関連の支出をはじめ21.5億円を見込む。
- ▶ ROEは、2025年度8.2%となり、2028年度の目標を先行して達成。
- ▶ 2025年度の年間配当は、前回予想比+3円/株増配となる24円/株(中間配当10円/株、期末配当14円/株)を決定。2026年度の年間配当予想は、年間24円/株を計画している。

項目	単位	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)	2026年度 (最新予想)
設備投資				
意思決定ベース	【百万円】	745	3,050	1,200
〔キャッシュアウトベース〕	【百万円】	(2,327)	(1,900)	(2,150)
ROE	【%】	5.2	8.2	—
ROA (営業利益ベース)	【%】	5.3	6.3	—
配当	【円/株】	14.0	24.0	24.0
配当性向	【%】	29.6	30.4	30.3

四半期別 事業別売上推移

重点事業		2023年度					2024年度					2025年度					2026年度	
		実績																予想
		1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	年間	
コンデンサ	産業機器	2,206	2,380	2,375	2,465	9,426	2,493	2,613	2,113	2,820	10,039	2,343	2,431	2,819	2,761	10,354	9,600	
	自動車 (xEV)	1,442	1,213	1,344	1,048	5,048	846	1,157	1,271	1,043	4,317	885	1,053	728	1,028	3,693	5,000	
	その他	1,047	995	910	940	3,893	906	952	977	939	3,773	844	1,093	871	942	3,750	3,500	
	合計	4,695	4,588	4,630	4,453	18,365	4,245	4,722	4,361	4,802	18,129	4,072	4,576	4,419	4,731	17,798	18,100	
電力機器	電力 (国内)	1,086	1,435	1,860	1,624	6,005	1,343	1,604	2,013	2,444	7,404	1,791	1,935	2,594	2,209	8,528	9,050	
	電力 (海外)	162	184	158	217	722	192	211	272	155	830	146	374	192	148	859	900	
	環境省工ネ	168	321	278	224	991	356	121	147	119	743	74	148	135	236	593	1,300	
	その他	40	68	46	70	224	30	16	73	121	241	2	131	26	56	215	250	
	合計	1,456	2,008	2,342	2,135	7,940	1,921	1,952	2,506	2,839	9,217	2,012	2,589	2,946	2,650	10,196	11,500	
総合計		6,151	6,596	6,972	6,588	26,305	6,165	6,674	6,867	7,641	27,346	6,085	7,165	7,364	7,382	27,995	29,600	

1. 2026年3月期（2025年度） 通期 連結決算概要
 2. 2027年3月期（2026年度） 通期 最新見通し
 3. **中期経営計画 第Ⅲ期の進捗状況**
- 補足資料

第Ⅲ期の基本方針

中期経営計画 第Ⅲ期のテーマ

企業価値向上に向け
融合からシナジーへ

～**知の融合の拡大展開**で、社会に必要とされる企業を目指す～

Mission	電気エネルギーの有効利用を支え、社会の持続的成長に貢献する
Vision	電気エネルギーの有効活用において無くてはならない存在となる ・顧客のニーズを超える製品競争力（技術・品質・コスト）を獲得 ・電気エネルギーマネジメント（省エネ、電力品質など）における多様なニーズに応えるソリューション企業となる

企業価値向上に向けた取り組み

- ▶ 「資本コストを意識した経営」
- ▶ 「PBR1倍以上や資本コストを上回るROEの実現」を強く意識した施策

「企業価値、株主還元」の向上拡大に取り組む

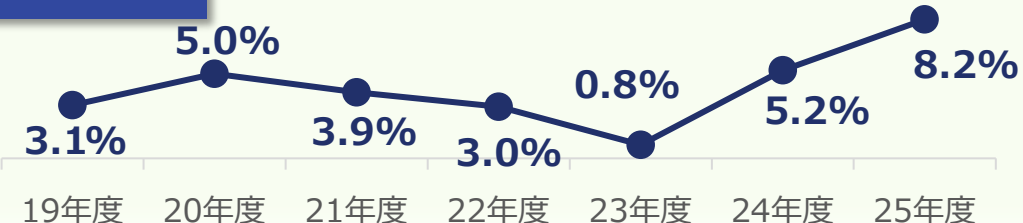
PBR



PER



ROE



2025→
2028年度
＜実績と目標＞

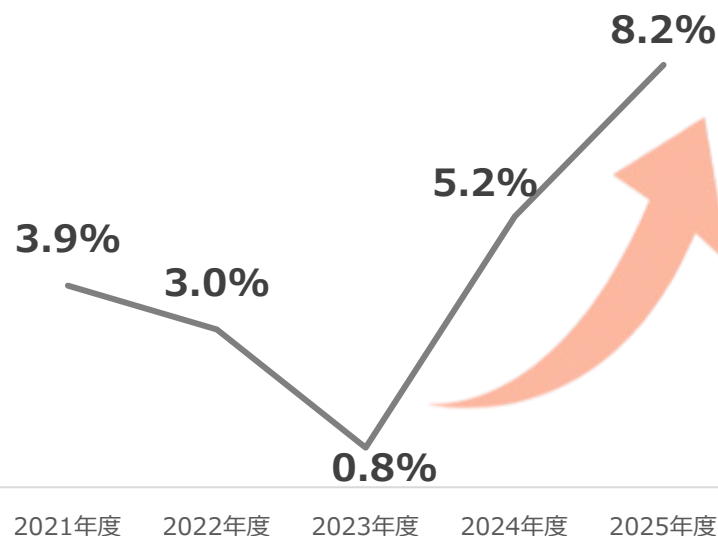
営業利益
25.2→31 億円

当期純利益
19.9→22 億円

ROE
8.2→8.0%以上
を維持

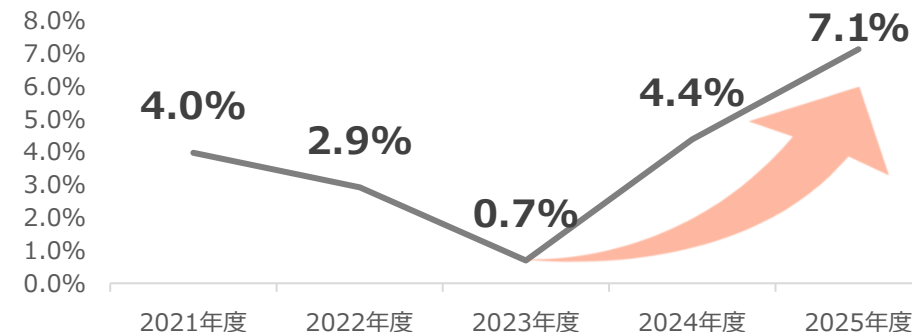
ROE

- ▶ 当期純利益率の向上
- ▶ 総資産回転率・財務レバレッジの維持
- ▶ 株主資本コストのターゲットゾーンである、8%を上回る水準の持続



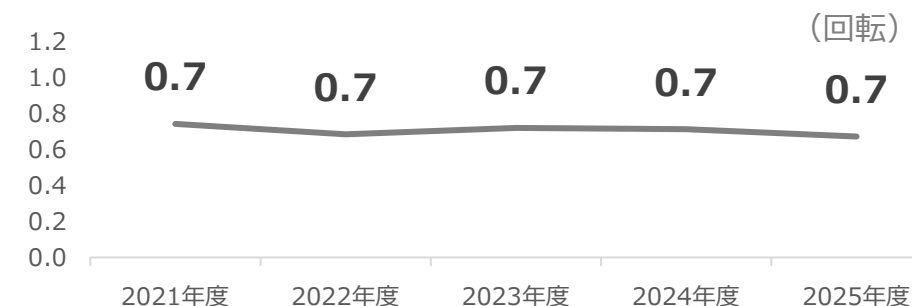
当期純利益率

- ▶ 商品リニューアル
(不採算機種種の統廃合)
- ▶ 生産性改善の継続実施



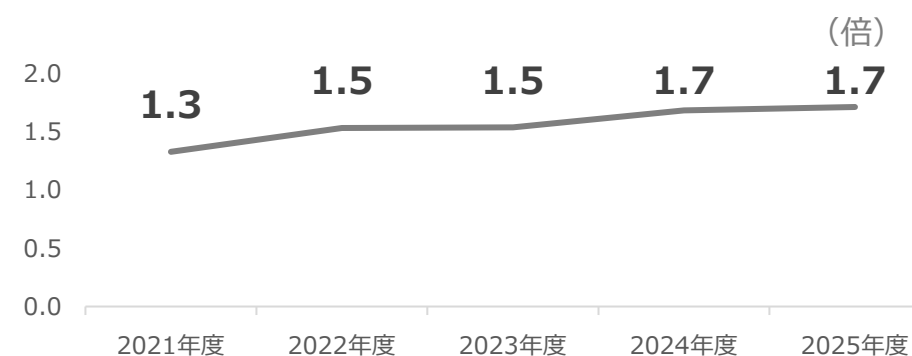
総資産回転率

- ▶ 資産活用の効率化
- ▶ サプライチェーンの強靱化
- ▶ 売上債権回収サイトの短縮



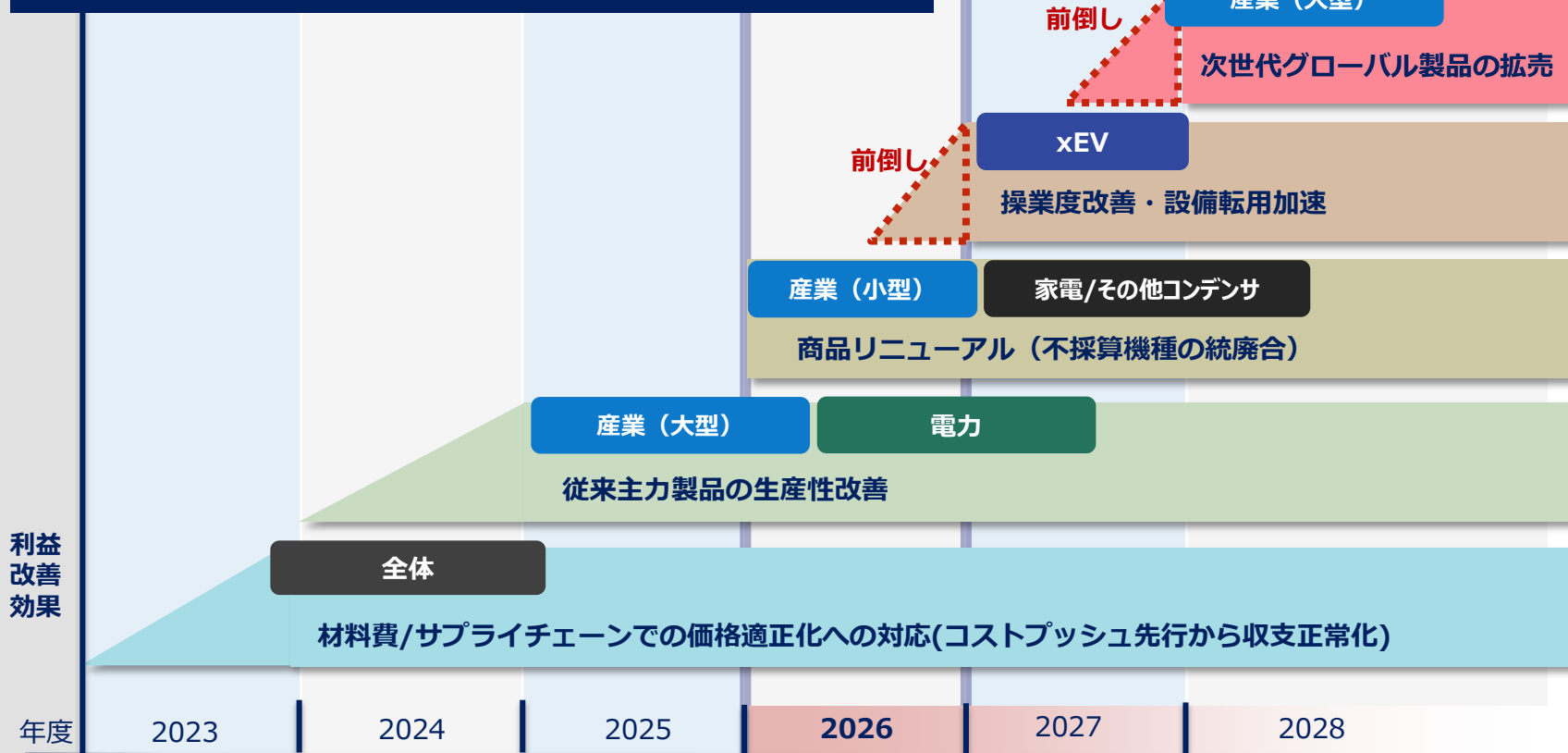
財務レバレッジ

- ▶ 安定配当かつ配当性向30%以上の維持
- ▶ 自己株式の多面的な検討



利益率の改善に向けた取り組みの概要

(2023年度⇒2028年度、営業利益ベース)



◆足元の状況

新製品開発中。2027年下期からの量産を目指す。
詳細：P.18 参照

26年7月～新ラインでの増産を開始予定。
詳細：P.19 参照

顧客への代品（リニューアル品）提案、変更申請、ラストバイ申請等の対応を順次進める。

作業・工程の見直しや生産現場のムダ削減等の地道な改善活動を着実に継続して進める。

中東情勢の影響等による部材価格の上昇が顕在化しており、製品価格の適正化を継続して進める。

成長事業への戦略的投資を強化し、資本コストを上回る持続的な付加価値の創出を目指す

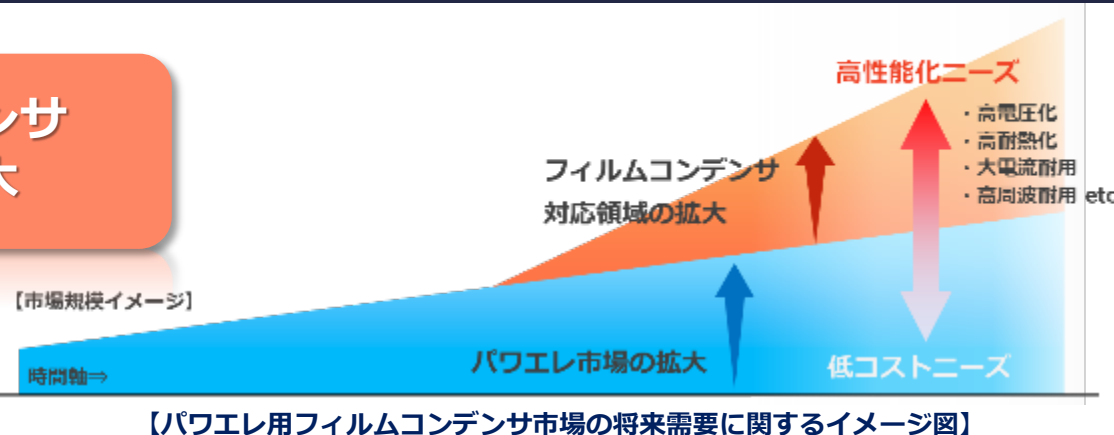
コンデンサ事業を取り巻く環境

パワーエレクトロニクス※
関連市場の拡大



フィルムコンデンサ
対応領域の拡大

※当社の産業機器用/xEV用コンデンサの多くがパワエレ装置に組み込まれております。



1. パワーエレクトロニクス関連市場の拡大

- ▶ **系統変電システム** 電力インフラでの交流・直流混在が加速し、系統連系のための電力変換（≒パワエレ）ニーズが増加
- ▶ **AIデータセンター** AI処理の需要増に伴いDC（データセンター）市場ならびに付随するUPS（無停電電源装置）市場が拡大
- ▶ **xEV** 燃料代の高騰や電池コストの低下を受け、電動化は不可逆的に進展



2. フィルムコンデンサ対応領域の拡大

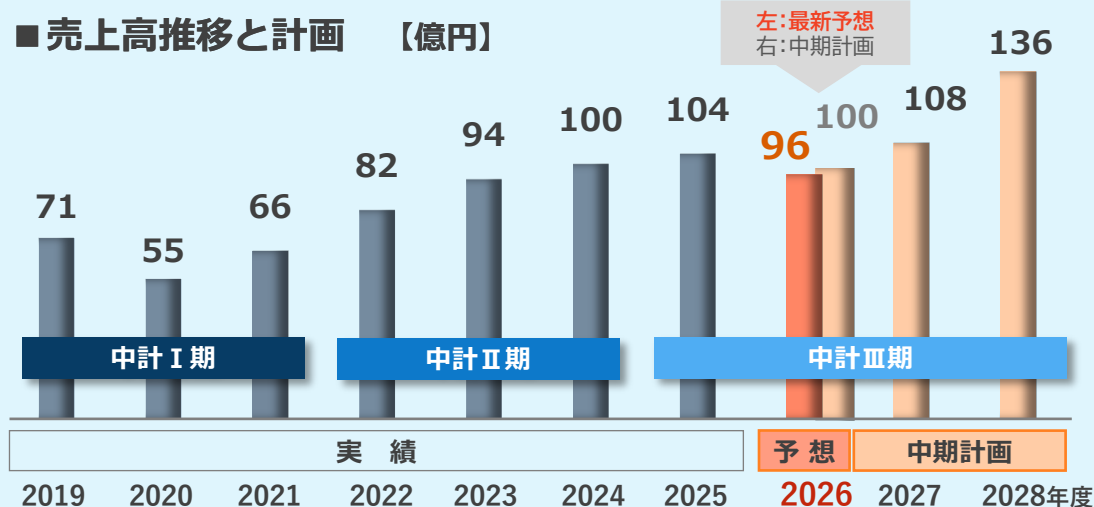
- ▶ **SiC/GaN搭載機器の開発加速**
次世代パワー半導体を採用したパワエレ装置の開発が加速。コンデンサに求められる性能がより高度化し、フィルムコンデンサの対応領域は拡大していく見込み。
- ▶ **システム高電圧化の進展**
電力変換効率の極限化、およびパワエレ装置内の大電流化の限界などの影響を受け、システムの高電圧化が進行。高電圧域は他のコンデンサに比べ、フィルムコンデンサが得意とする領域であり、中長期的に需要の大幅増が見込まれる。



産業機器事業 第Ⅲ期の対応

- ▶ **グローバルスタンダード製品の投入によるシェア拡大**
 - ・グローバルで戦える製品の早期実現
 - ・海外向けプロモーション活動で当社認知度向上を目指す
- ▶ **xEVの知見を生かした製品開発**
加工条件の最適化と加工精度の向上により、価格競争力を強化した製品を開発
- ▶ **需要拡大に応じた生産体制の構築**
既存主力製品の生産能力を拡大し、需要増のタイミングを見極め、大幅な生産増強に取り組む

■ 売上高推移と計画 【億円】



産業機器事業 TOPICS

- ▶ 高性能化ニーズに応える業界TOP性能の新製品を開発中（量産：'27年下期目標）
- ▶ パワエレ装置メーカーからの意見も取り入れながら、上記の方針に即した活動を推進する。



xEV事業 第Ⅲ期の対応

▶ 戦略の変更

- ・ 投下資源の有効活用、新規受注を抑制、手持ち案件の生産に注力
- ・ 国内STⅠ/STⅢ案件を最優先ターゲットとし、海外は価格以外の付加価値を追求する顧客、案件に特化する

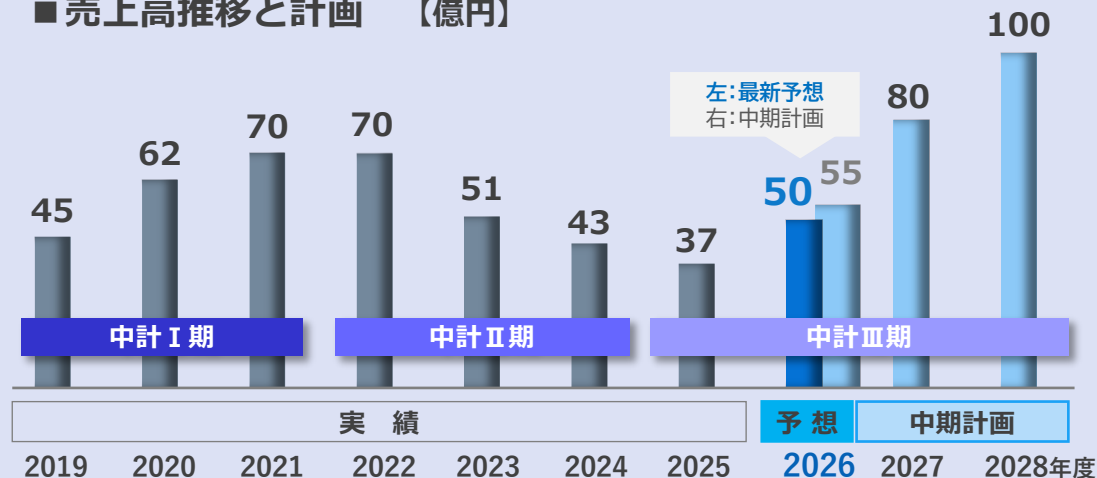
▶ 競争力の向上

PRM/TRM(※)の達成で、競争力のある製品価格を実現する

▶ 収益力拡大

原価低減を推進し、需要変動リスクを見込んだ投資の最適化を図る

■ 売上高推移と計画 【億円】



xEV事業 TOPICS

▶ 2026年度中に新組立ラインでの量産（増産）を予定。

1) 形状の異なる複数の製品を生産できる組立ライン

‘26/7月～欧州完成車メーカー向け 量産適用開始

2) 同一製品を複数拠点で生産可能とすることをコンセプトとした、増産対応組立ライン

‘27/1月～日系INVメーカー向け 量産適用開始

※ PRM (Product Roadmap) : 製品の長期的なビジョンと方向性を示す
TRM (Technical Roadmap) : 将来の技術の変遷を表現したマップ



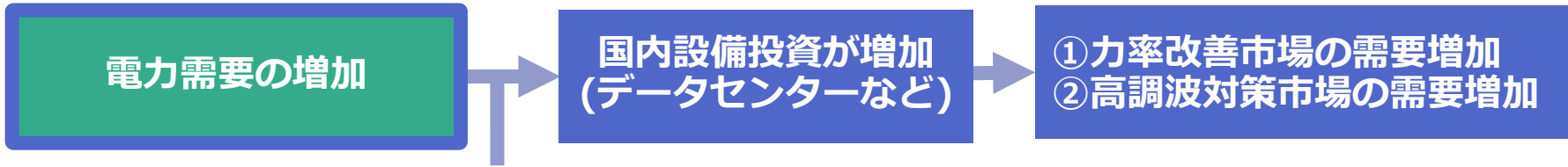
写真：xEV用コンデンサ製造ラインの一部



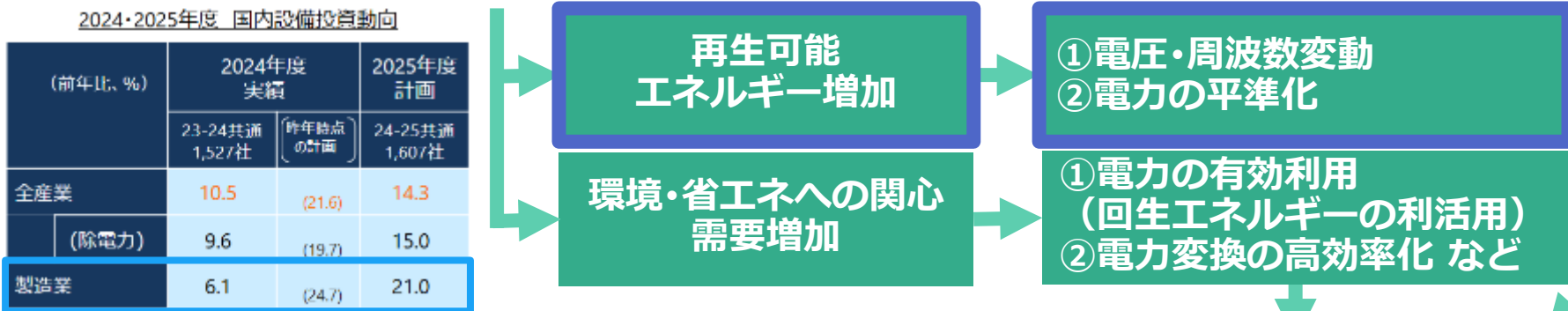
図：xEV用コンデンサ製造ラインマルチ化の取り組み
(2024年11月決算説明会資料より抜粋)

電力機器事業を取り巻く環境

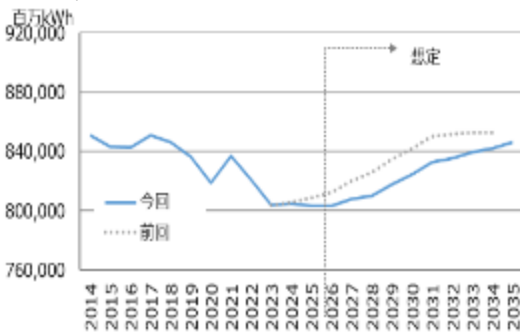
■ 堅調な国内設備投資、データセンター増加



■ 電力需要の増加に伴い、エネルギーの有効活用にも注目が高まる



出典：株式会社日本政策投資銀行 | 2025年度設備投資計画調査



出典：260121_電力広域的運営推進機関 | 全国及び供給区域ごとの需要想定 (2026年度)

- ▶ 製造業の設備投資が前年比21%増、電力需要と連動し受電設備も好況。
- ▶ 節電・省エネの減少影響がありながらも、半導体工場・データセンターの新增設に伴い電力需要は増加。

当社の取り組み

コンデンサ技術と電力変換技術を駆使し、系統・発電・蓄電との最適連携を図る製品開発を強化する。



当社の取り組み

電力用コンデンサ・リアクトル（力率改善装置）、高調波対策機器の増加

↓

顧客ニーズに合う提案型製品の開発を進め、製品競争力を強化しシェア拡大を目指す。展示会等で高調波抑制対策の実効性を訴求し、製品の認知度向上を図る。



電力機器事業 第Ⅲ期の対応

- ▶ **部門間連携での拡販・プロモーション活動の推進**
開販製一体となった会議体を主導し拡販・プロモーション活動を推進する
- ▶ **新製品開発の推進**
パワエレ技術のさらなる強化と、顧客ニーズに合わせた新製品開発により、製品の市場競争力を向上させる
- ▶ **指月電機としてのトータルソリューション**
コンデンサ（デバイス）とパワエレ機器（システム）の融合による革新的なソリューションを確立する

■ 売上高推移と計画 【億円】



電力機器 TOPICS

- ▶ 省エネ機器（インバータ）の増加に伴い、「高調波対策機器」の需要も堅調に推移。
- ▶ 水処理、ごみ処理、リサイクルセンターなど公共施設向け案件を継続的に受注。
→ 社会問題である高調波障害の抑制のため、展示会などを通して啓発活動を実施。
顧客の課題解決を通し、「高調波といえばシズキ」を目指して活動強化中。



『JECA FAIR 2026』 出展中▶



高調波勉強会は、
毎回、多数参加。

【億円】

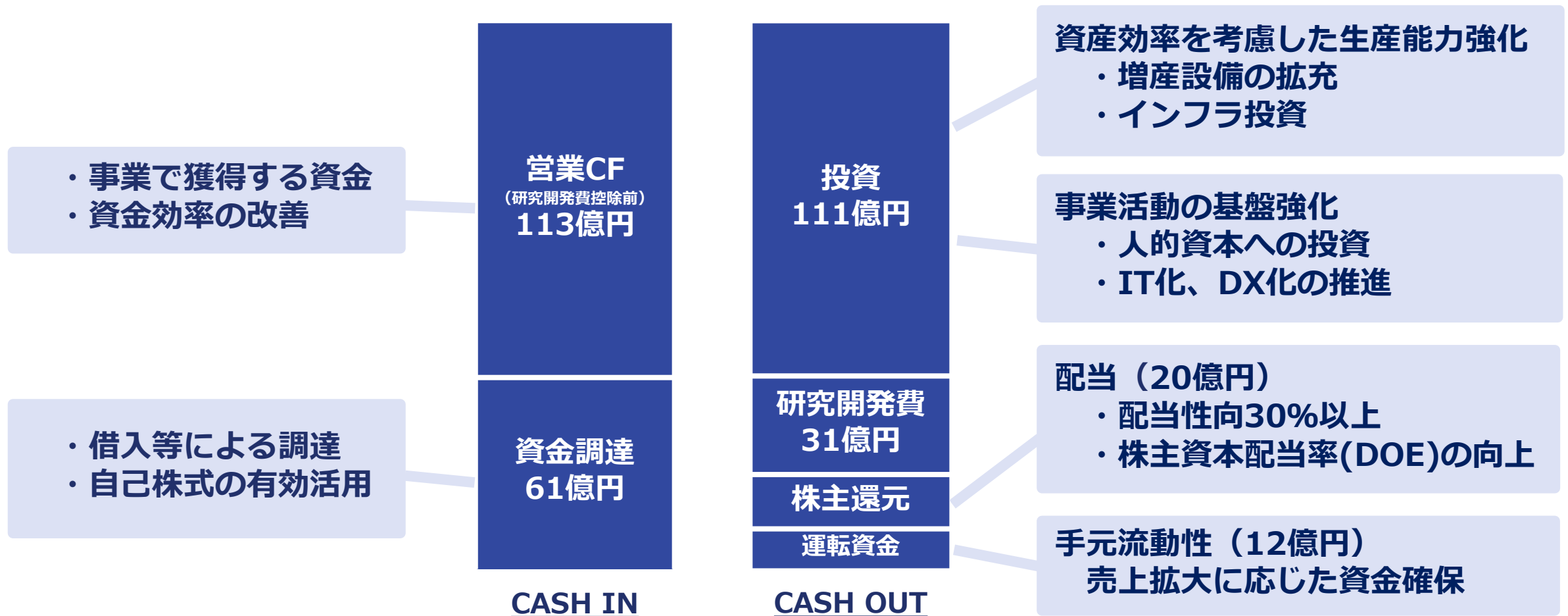
項目	中期経営計画第Ⅱ期	
	2023年度	2024年度
	(実績)	(実績)
売上高	263	273
コンデンサ	184	181
電力機器	79	92
営業利益	11	20
営業利益率	4.2%	7.3%
当期純利益	2	12
当期純利益率	0.7%	4.4%
ROE	0.8%	5.2%

中期経営計画第Ⅲ期			
2025年度	2026年度	⇒	2028年度
(実績)	(予想)		(計画)
279	296		380
177	181		272
101	115		108
25	27		31
9.0%	9.1%		8%
19	20		22
7.1%	6.8%		6%
8.2%	—		8%

- ▶事業ポートフォリオ戦略と事業毎の競争力向上策を中心に、収益性/資産効率面の課題を克服し、企業価値を高める。
- ▶2028年度の目標値である、ROE8%を前倒しで達成。高位の安定化を目指す。

キャピタルアロケーション（2025年度～2028年度）

投資、株主還元を重点に効率的な資本配分を行い、企業価値向上及び持続的な成長を目指す

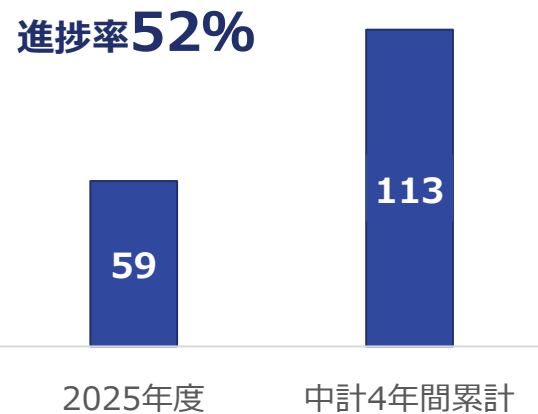


キャピタルアロケーションの進捗状況

営業CF (研究開発費控除前) 【億円】

計画前倒し

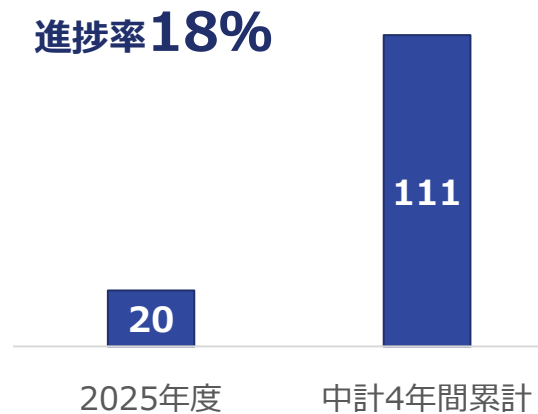
- ・収益性の改善
- ・売上債権の回収改善実現



成長・基盤強化投資 【億円】

概ね計画通り

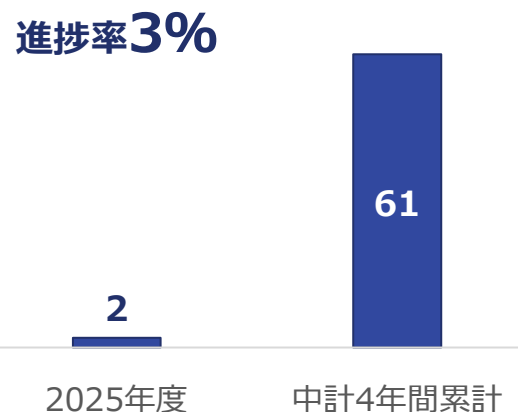
- ・本社生産棟の建替えを実施中 (2027年秋口竣工予定)
- ・x EV新案件の量産対応



資金調達 【億円】

計画後倒し

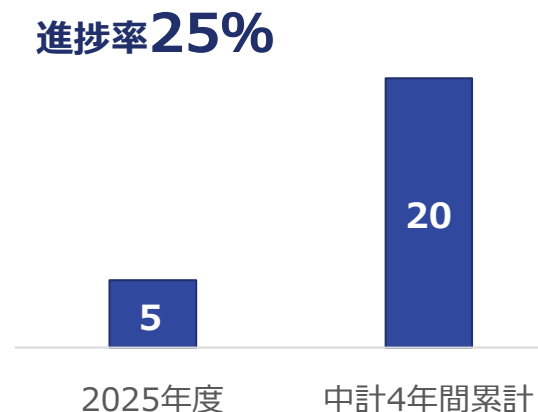
- ・資金繰りの改善
- ・投資タイミングの見極め



株主還元 【億円】

計画前倒し

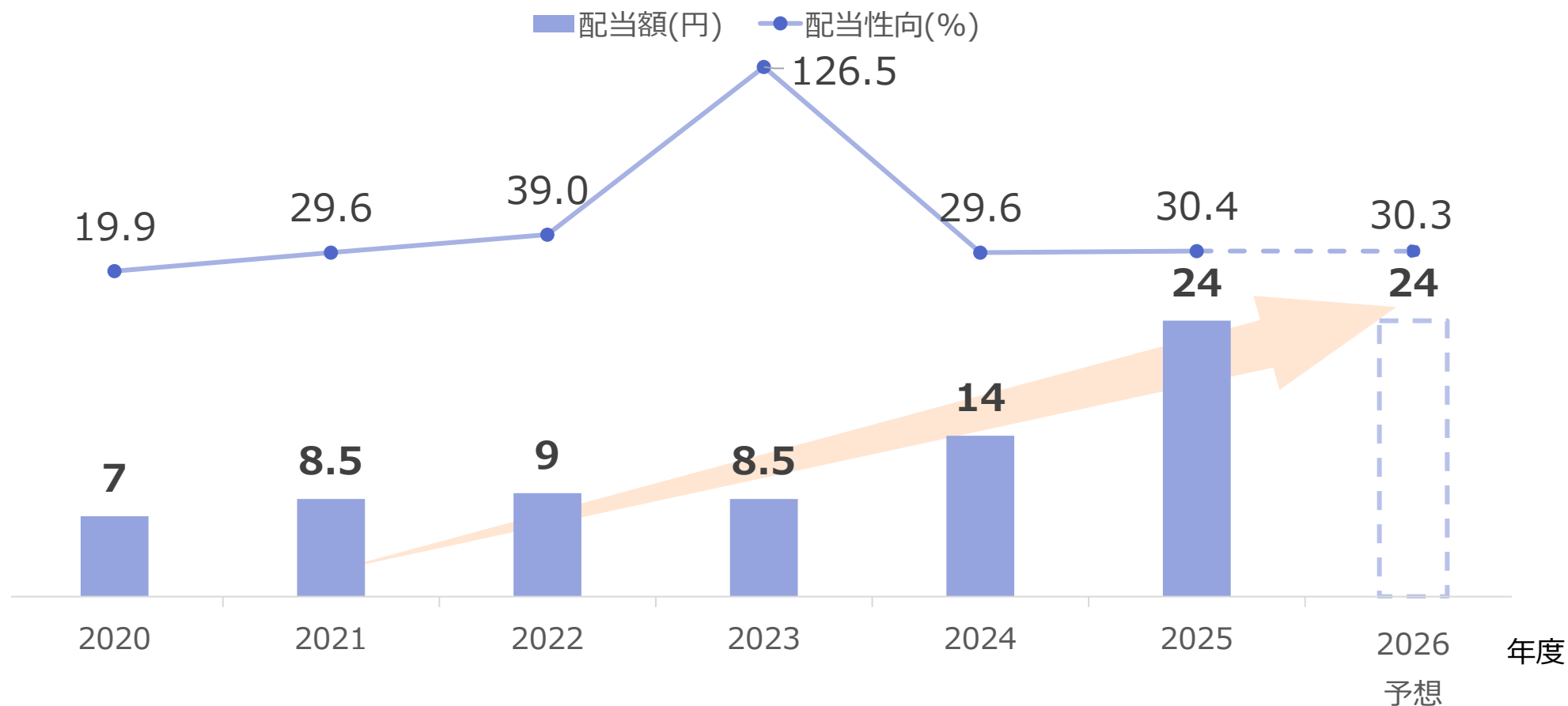
- ・利益の増加に伴う配当増
- ・配当性向30%以上の堅持
- ・DOEも意識



CASH IN

CASH OUT

- ① 配当方針：安定配当及び配当性向30%以上を堅持しつつ、DOEを意識した配当を検討
- ② 配当：2026年度は、前年度比据え置きの24円/株を予想

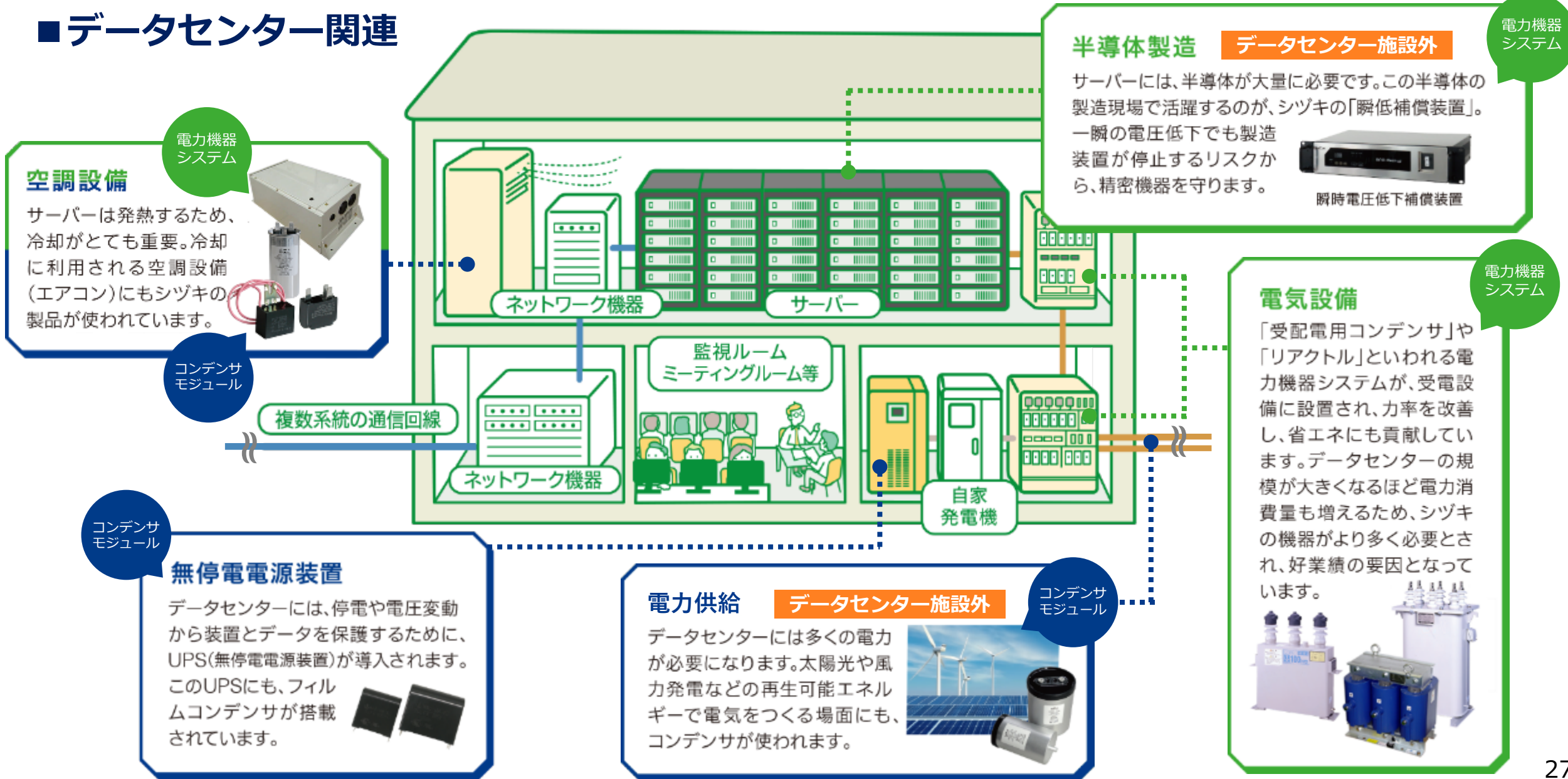


1. 2026年3月期（2025年度） 通期 連結決算概要
2. 2027年3月期（2026年度） 通期 最新見通し
3. 中期経営計画 第Ⅲ期の進捗状況

■ 補足資料

<補足> 採用事例

■ データセンター関連

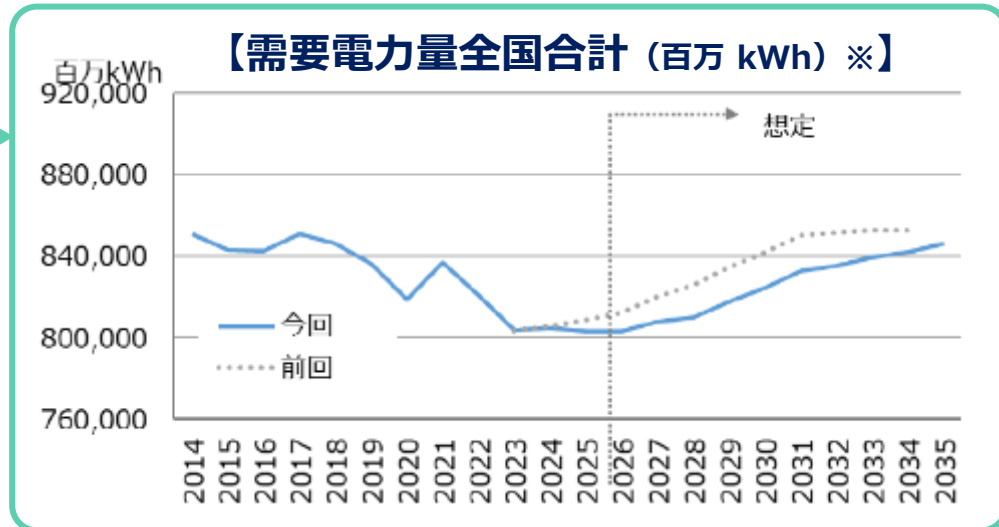


<補足> 電力需要の増加と電力機器

- ▶ 国内の設備投資が堅調に推移しており、それに伴う**受電設備も増加**
- ▶ 生成AIなどのデータセンター需要拡大を背景に、**電力総需要が増加**

当社受電用機器の納入先（電力国内の売上のベースとなる製品）

高圧受電をしている様々な工場・施設・設備に、受電の規模に応じた製品台数が設置される(コンデンサ、リアクトル、高圧進相設備など)。JEMAの統計により、当社製品シェアは国内TOPクラス。



※出典：260121_電力広域的運営推進機関 | 全国及び供給区域ごとの需要想定（2026年度）



活発な設備投資による工場建設や市街地の再開発などが活況になると、受電用機器や高調波抑制装置の受注が増加。



<補足> 電力使用と弊社製品の関係

電力機器事業

電力



高圧受電と進相コンデンサ・直列リアクトルはセットで必要に

① 力率改善装置

電力使用の際し、力率改善の必要があります
設備投資が盛んな昨今、
進相コンデンサ・直列リアクトルの需要が増加
業界最高水準の低損失と顧客満足度の高いQCDSで
多くの現場で活躍しています



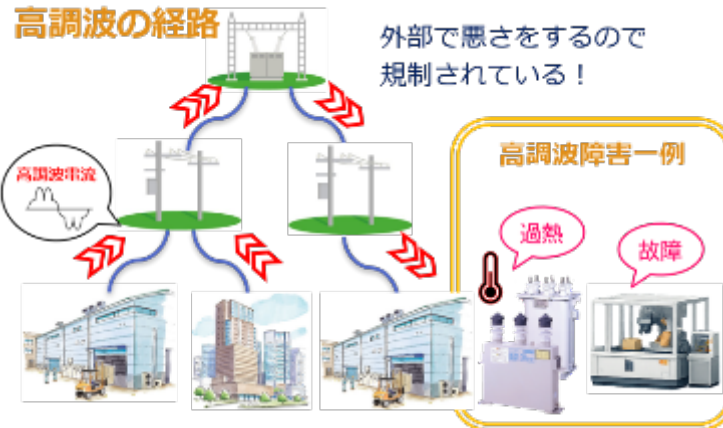
受電契約には高調波検討が必須です

② 高調波対策装置

高調波はどこから発生するの？

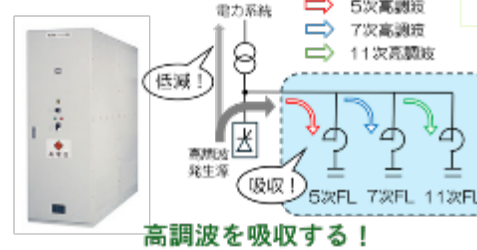


工場や施設などのインバータ機器から発生！

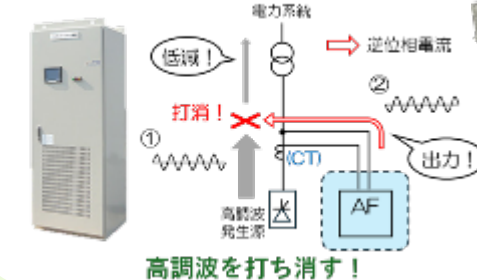


高調波対策技術指針に基づき、
発生する高調波の計算、対策の要否を検討する必要があります

パッシブフィルタ



アクティブフィルタ



主な納入先



焼却施設



エアコン
エアコン
専用品



ビル

注意事項

この資料に記載されている、当社および当社グループに関する業績見通し、計画、経営目標、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、あくまでも将来の業績などに関する見通しであり、それらは各資料の作成時点において入手している情報と一定の前提に基づき作成されております。従いまして、実際の業績は経済環境、市場動向、製品の需要変動、価格変動、為替レートの変動などの重要なリスク要因や不確実な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となる可能性がありますのでご注意ください。

SHIZUKI ELECTRIC CO.,INC.